

緊急ワークショップ 2025 即時 OA 対応を考える会 開催報告

国立大学図書館協会資料委員会

令和 5 年 12 月 14 日

内閣府から、公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方 (<https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>) が示された。同文書では「即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」として、

国及び FA は、2025 年度より新たに公募する即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む。）に対し、論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。

が挙げられ、各大学における機関リポジトリ運営等への追い風となるとともに大きな影響がもたらされることが予想される。

現在明らかになっている情報が限られ、今後の対応について見通しを立てにくい状況にあることから、協会会員館で情報や課題の共有を図るため、ワークショップをオンライン方式 (ZOOM) にて開催した。以下にそのワークショップについて報告する。

(開催概要)

日時：令和 5 年 11 月 27 日 (月) 9:30~11:00

対象：本件に関心のある会員館職員

内容：趣旨説明・全体司会 飯田智子 (資料委員会事務局・京都大学)

状況解説 尾城友視 (オープンサイエンス小委員会 TF・東京大学)

グループ討議 (30 分) 直江千寿子 (オープンサイエンス小委員会 TF・名古屋大学)

全体討議 (30 分) 花崎佳代子 (オープンサイエンス小委員会 TF・神戸大学)

会員館からのべ 133 名の参加があった。(状況解説時 133 名、グループ討議時約 80 名 (運営含む))

内閣府文書及びその周辺情勢について解説 (別添スライド参照) ののち、グループ討議では、参加者が 1 グループ 6 名前後に分かれ、即時 OA 対応に関して知りたいこと、要望、課題、今できることなどを議論した。別紙にその内容を付す。

グループ討議を踏まえ、全体討議では、グループ討議の内容からいくつかトピックを抽出し、該当のグループに討議内容の詳細を聞く形式で実施し、以下のような課題や情報を共有した。

・ 部署によって情報量の差があるため、図書館が関係部署と情報共有を図っていく必要

がある

- ・ データ公開の責任の所在を明らかにしておく必要がある
- ・ 機関リポジトリの登録体制（人員・環境）を整えていく必要がある
- ・ 構成員の発表論文の把握には、NIIが現在開発している JAIRO Cloud の OA アシスト機能がある程度使えるかもしれない

閉会に際し、グループ討議参加者約 80 名（運営含む）に今後同様のワークショップ開催について希望を聞いたところ、51 名から希望すると回答があった。

（運営補助）

杉田茂樹（資料委員会・京都大学）、小陳左和子（資料委員会・大阪大学）、萩誠一（資料委員会・大阪大学）、鈴木雅子（オープンサイエンス小委員会・神戸大学）、竹下啓行（電子資料小委員会・岡山大学）、堀優子（電子資料小委員会・九州大学）、西森哲也（電子資料小委員会事務局・大阪大学）

以上

グループ討議における各班の話題

(大学名・個人名等を消去したほかは、原則として参加者が記録した原文のまま)

■1班

- ・ RD ポリシー策定後、JAIRO Cloud に移行したタイミングで即時 OA が出た。紀要論文掲載がメインなので、掲載するのはそれが中心。APC・査読状況の把握などどうするか (Scopus も WoS もない大学は?) そもそも乗るか?
- ・ 即時 OA に、本当に Gold OA が含まれるのか、分からないと動きようがない
- ・ IR は紀要と博論メイン。今後雑誌論文をどう把握し、登録していくか課題。Scopus のアラートから責任著者の教員へ働きかけてはいる (一部)
- ・ '26 実施は、難しいのではないかと (←教員からどう情報を出してもらうのか、それを入力する側のマンパワー的負担)。難しい、という結果が出てから、試行錯誤してゆくことになるのでは?
- ・ RD をどのレベルまで登録すればよいのか (Supl.程度でよいのか etc.) ?

■2班

- ・ 研究者 (数が多い) の把握が難しい。Gold を Green にしないといけないのか。
- ・ 何がオープンになっているかの把握
- ・ 関連部署のワークフローの把握、図書館外の研究支援部署とのすみわけが課題
- ・ 業績管理システムに登録されたうち、どれが OA 義務化対象なのかの把握。エンバーゴ期間の調査。現システムだけでは対応が難しく、混乱が予想される
- ・ 連携体制・・・十分に進んでいない印象
即時 OA の重要性を他部局と共有することが可能か
- ・ 論文の把握・・・予想以上に難しい
研究費の獲得 (研究推進) から把握できるといいが、図書館は逆からになる
研推：論文の把握が難しい 図書館：論文から研究費の把握が難しい
NII が OA 支援ツールを開発中

■3班

- ・ 研究データの公開範囲は? (モニタリングが難しい)
- ・ データの公開は研究者自身に任せておけばよいのか、という確認をしたい。著者が学生の場合の取扱い
- ・ どういう条件、どのくらいキッチリやる必要があるのか。(博論のリポジトリ公開は様々な例外がある) なるべく省力化する準備 (今はリポジトリの登録をメールで受け付

けているがフォームにするなど) 結局は 2 重 OA、APC を出版者に払い続けることには変わらない。それに対する補助がどれくらいつくのか心配

- ・ システム的な連携ができていない。どうしたらよいか。。
- ・ JAIRO Cloud に自動公開できるような機能をつけてもらおうとか
- ・ チラシ等の広報、周知ツールは個別に作成するのではなく、JJ で作る全体に使えるものに期待
- ・ 学内での (他部署との) 役割分担どうする?
- ・ まとめ: 課題は「人・カネ」

■ 4 班

- ・ 仲間を作る どうやって作ればいいのか。具体的に知りたい。誰をまきこんだらいいのか、どういう巻き込み方をするのか。具体的に動くやり方を知りたい
- ・ 学内で他部署との連携はかなり必要。オープンアクセスについては、研究支援系の部署と連携しないと進まない。お金にかかわることもあるので、財務系ともかかわる
- ・ ポリシーの策定中。即時 OA でどういうことをもとめられるのかがわかっていないので、仲間をつくれと言われても何をすればいいのか。情報共有くらいしかできない
- ・ ゴールド、転換契約については雑誌、契約担当がお金のことを財務に、機関リポジトリについては研究推進、研究協力に相談。それぞれ相談するのではなく、図書館の中でも関連して。他部署へも連動して働きかけをしていく必要がある。補正予算の資料を見ると、ポリシーができてるところから重点的に配分されるように読めるので、ポリシーの策定がこれからの本学はそれを重要課題としてきっかけとしたい。ワーキングはできており、図書館の方が情報が流れている気がするので、図書館で得た情報を研究推進に流している
- ・ 研究支援に関わってもらるのが難しいと感じている。意識の共有が難しい
- ・ 他部局と連携するにしても、ふわっとした持ち掛け方をしても相手方も困る。転換契約で研究支援と連携学認 RDM についても情報系と図書館で連携しようとしているけど、なかなか難しい
- ・ まとめとして、図書館に一番状況が流れてくるのはそうなので、それをどうやって共有するか、全学的なところに、上から動いてもらえるように働きかけをするか (大学として如何に研究者に必要性を知らしめるか)、というのが今できるところでは (今から攻めていく考えどころでは)
- ・ その他として、今後登録件数が増えていくことが予想されるため、教員のセルフアーカイブを実現できている機関はあるのか、また、今後そのあたりのシステム (各機関の機関リポジトリ、学認 RDM 等) の機能的な面。負担面が気になるという話もできました

■5班

- ・ 即時 OA どう対策していくか
A大: 研究データの OA 明示、B大: 各学部での OA ポリシー策定 医学部では進んでいない どのような形でやればよいのか、C大: リポジトリのポリシーを充実させていく段階、D大: 研究データポリシーはこれから進めていく OA 方針は数年前策定 人手・JAIRO Cloud に不安
- ・ 研究データポリシー・OA ポリシーの策定状況
A大・B大・E大: どちらも策定済み、D大: OA 策定済み 研究データまだ
- ・ 業務量について
B大: 直接教員にできるだけデータを入れてもらう or researchmap のデータや他のデータベースとの連携→事務担当の業務量削減、登録増加へ
C大: forms などできるだけ登録情報を教員側に入れてもらう
A大D大E大: まだ手動の部分が多い
- ・ 権利保持関係について、プレプリントについて
時間の都合で途中で打ち切り

■6班

(OA ポリシー策定状況)

A大×、B大×(2024 夏までに研究データポリシーと同時策定中)、C大○(研究データポリシーができたばかり)、D大×、E大○

(即時 OA の影響)

- ・ ポリシーとの整合性もとらないと。人が必要。人が少ないところで情報共有が必要
- ・ B大: 執行部の理事、研究推進課、学術情報課、情報基盤センターで進めていこうとしている。ポリシーを決めた先も見据えることが課題
- ・ 特に教員で、学内の反響はあるのか?→ない。教員は機関をまたいで異動するので、温度差、現場の負担感はそれぞれ異なる
- ・ 業務量の増加も見えていなくて不安
- ・ 義務化にあたって、登録フローを考えるとときに、教員スタートで考えるのがいいのか?図書館スタートでやっていけるといいのか?WoS にのったときでは遅い?
- ・ 科研費のデータとか拾ったほうがいいのか?自分で登録したい人もいる
- ・ 以前研究成果を収集していたときも反応は薄かった。研究者総覧からやる?
- ・ ゴールド OA の論文もリポジトリに掲載しているか?→依頼があった場合には載せている

■7班

- ・ 図書館の中の体制、パイプ作り

A大：体制作りの途中（図書館・URA）、B大：4人体制、学術雑誌は別部署、ゴールド論文のリポジトリ掲載は浸透していない、研究データポリシーはTFを設置（7月に策定・公開。具体的な運用は引き続き議論中）→所属研究者はデータを持つておくことの重要性は承知だと思う、C大：研究推進の部署が同じ部内にある

- ・ 研究者との情報共有は行っているか？

A大：即時OAやデータも対象となる旨についてのやりとりはまだ行われていない、C大：月例の会議でポリシー策定を報告したら後ろ向きな反応

■8班

- ・ 要望

FAがフォローアップ/金銭的な補助

- ・ 課題

リポジトリと学内システム連携/学内の横連携・体制づくり/補正予算で一時のお金がつくだけで足るのか

■9班

（各大学の現状について）

A大：グリーンの場合、業務量が増えることが懸念される
転換契約について検討中

B大：2024年からの転換契約を検討

C大：研究データが増加することが予想されるので、今の体制では難しい
ポリシーはできているが実施要領等はまだ未作成
転換契約は2023年から施行中

D大：2025年から転換契約を検討中
2024年からJAIRO Cloudへ移行予定

（気になる点）

- ・ 即時OAの「即時」の期間がどのくらいになるのか
- ・ グリーンOAの増加により、負担が増える（人件費増）
- ・ リポジトリでOAにできないものもある
- ・ ライセンスの確認も負担（国内の学会等はこの現状をどのくらい認識しているか）

●10班

（意見交換）

- ・ エンバーゴの扱いがどうなるのかが疑問だったが、まだよく分からない事が分かった
- ・ 研究大で論文本数が多いので、作業の人的リソースやシステムリソースの確保が

懸念

- ・ 研究データのストレージ不安
- ・ 図書館の依頼に教員が対応して下さるか？研究推進系との連携など
- ・ リポジトリの業務量気になる。(専任職員もいない)
- ・ GakuNin RDM の進め方を検討しているところで、この話で教員が混乱しないか不安
- ・ 仕組み、制度を考えないと学内の論文発行情報は研究推進に頼みたい
- ・ 図書館リポ・分野別リポ・ゴールド OA 等、先生方の需要が知りたい
- ・ 現状、リポジトリを運営・管理しているのが担当者 1 名なので、このままでは即時 OA 化に対応していけないと思いますので、そのあたりの業務量把握や分担も課題と考えています

(要望)

- ・ JAIRO Cloud 不安定で大丈夫か？
- ・ リポジトリ登録は図書館職員がやっているが今後は研究者自身で？
- ・ 関係委員会や研究推進に情報共有

(課題)

- ・ リポジトリ登録の作業リソースが課題。大学の規模では専任いない場合もあれば、大規模でも紀要担当等分れている。
- ・ 学術誌掲載論文のリポ収載自体が進んでいない大学は、教員の協力必要
- ・ 即時 OA 出来なかった際のメリット・デメリットが判らないと、教員の協力が得られにくい (インセンティブ)
- ・ 学内関係部署との情報共有 (全部把握するには論文と密接に繋がっている研究推進部署との連携が必要)
→既に連携済みの大学は？

■ 11 班

(疑問点・気になっている事・状況など)

- ・ 即時 OA お金のかかる事 研究推進と協議中 図書館が主導？ リポジトリでやるのは難しい？
- ・ OA ポリシー未策定 図書館と研究推進が同じ部 本来は研推か？ 大学内では検討体制はあり。実際に機能しているかは疑問？
- ・ 即時 OA でグリーンの人員やストレージ増強が必要か？ 予算要求は単年度なので継続的な状況を作るのがこれから
- ・ 情報収集と情報発信に務めている。研推部署との温度差を感じる
- ・ 研究推進と情報共有中、誰が舵を取るかはまだ検討中 OA ポリシー策定中、教員向けのリーフレット作成中

- ・ 色々な大学（リポジトリ担当）とヒアリング中。それぞれの立場によって見え方が異なっている。インセンティブはなにか？オープンアクセスをどう捉えるかということを固めることがまず一歩。（MEXT）
- ・ 100 億円の方向性は？ ⇒ 書かれている内容を準備願いたい

■12 班

- ・ まだわからないことが多い。
- ・ 研究データを機関リポジトリに登録・広報を始めていた。研究データの登録フローも作ったが、量が増えるかもしれないので見直しが必要かも
- ・ 運用規則：改定しているところ、改定したがマンパワー不足
- ・ 他部局との連携：研究推進部門と話をしているが、OA の前提認識や知識に不均衡がある
- ・ 研究者への広報・メリットの提示と経験の提供があると良い、理解を求めるための飴があればよいのだが
- ・ リポジトリ登録の自動化にはどんな方法があるのか
- ・ （Gold OA 等の）メタデータのみ登録はしてる？サイズが大きい研究データを先生のサーバに置いて、そこにリンクを貼っている例も
- ・ GakuNin RDM 使ってますか？
使っている。あまり研究者の方は使っていないかも。連携に難があり広報していない